



横須賀商工会議所
6次産業化を応援!

「産農人」とは農作物をつくるだけでなく、市場ニーズを理解し流通させることのできるマーケットセンスを持った新しい農業人を表す造語。横須賀商工会議所と地域の農家・加工業者・飲食店・メーカーが一丸となって、将来の農業を担う有用な人材の育成に取り組んでいます



畑の真ん中に学びの場

住宅街から少し離れた畑の一角。新時代の農業人を育成する「産農人」プロジェクトの研修施設が横須賀市林に完成した。強靱な農業用ビニールハウスの中で講習や座学を行う。このほかに収穫した野菜を保管する冷蔵庫も備えており、多目的に利用していく。

10代・20代の若者に門戸開く

横須賀商工会議所が旗を振る同プロジェクトは今年度、神奈川県を委託を受けて新たなコースを設けた。農業に関心を寄せる10代・20代の若い人材を市内外から呼び込み、最初の一步を踏み出してもらおう。

主眼を置くのはあくまでも担い手づくりだが、多様な経験を持つ人々を迎え入れることで、新しい視点が農業分野にもたらされることを期待する。一方、受講生は生産に関する技術習得だけでなく、これからの農業のキーワードとされる6次産業化や出口戦略から考える農業経営を実践型の研修を通じて学ぶことができる。

同商議所の平松廣司会長は、農業をこれからの横須賀の成長産業に位置付けたいと考えた。都心に近い産地の特色を活かして、飲食店や消



「6次産業化」の強み理解

「産農人」の加工班メンバーが開発に携わった「カラフルニンジンディップ」が12月3日に開かれた追浜ナイトマーケットで実戦投入されたII写真。用意した約30個が数時間で完売するなど人気と注目を集めた。売り場に立つて堂々と説明できるのは、自分たちが手掛けた商品だから。その説得力が手に取る人たちの購入を後押しした。「6次産業化」の強みを知る場となった。

これの実現には、農業に従事するプレイヤーを増やしていくとともに、新しい発想を生み出す土壌が必要となる。非農家が就農できる仕組みも横須賀で確立させていく方針だ。新研修施設がその役割を担っていく。



幅広い人材を求めて10代・20代の若者に門戸を開いた「産農人」の新コースに、12月から藤井陽介さん、小野田希史さんの2人が参加。初声高校のメンバーと一緒に実習に励んでいる。藤井さんは大学で経済学を専攻、春から大手保険会社に就職する。幼少期から土いじりが好きで、農業に少なからずの関心を寄せており、「プロの仕事を知ること、社会人生に役立てたい」と話している。一方の小野田さんは大学卒業後、農林水産省への入省が決まっている。水産部門に携わることになるが、「『6次産業化』で先行する農業の現場から多くの知識を吸収したい」と意気込む。それぞれの視点を持つ2人が、既存メンバーに大きな刺激を与えている。

産農人育成プロジェクトに

新メンバーが
加わりました。

早速、鈴也ファームの鈴木優也氏のところで
農業の実習と
株永島農園の永島太郎氏のところで
キノコ栽培について学びました。

横須賀商工会議所

産農人

育成
プロジェクト



鈴木さんから農業について
レクチャー



畑を見て回ります



高校生と一緒にジャガイモの収穫

みんなで収穫しました!



今日は永島農園でレクチャー



椎茸の収穫です



高校生はぎくらの袋詰め